



「九州からの森林・再生」を 国民へ幅広い情報を提供

平成24年度 重点取組事項

九州森林管理局では、「九州からの森林・林業の再生」を目指し、民・国連携の取組や林業の低コスト化、国産材の安定供給等の取組を進めます。また、世界遺産をはじめとする九州の多様な森林を守り育てる取組、集中豪雨や新燃岳噴火対策など国民の安全・安心の確保に向けた治山事業の推進、森林・林業と国民のふれあいの推進などの施策を展開するとともに、国民への幅広い情報提供に努めて参ります。



林政記者クラブ5社へ記者発表

九州からの森林・林業 の再生

民有林と連携した森林整備・ 人材育成の推進

「九州からの森林・林業再生」を目指し、民有林との森林共同
施業団地における取組を通じた

地域林業の振興に取り組みとともに、民有林行政を支援し地域林業の推進役と期待されている「准フォレスト」の育成のための研修の実施など民有林も含めた人材育成に貢献します。

森林・林業の再生に向け、新たな路網の整備、コンテナ苗の活用等による低コスト造林の取組を進め、森林施業全体を通じた低コスト化を推進します。また、システム販売やC材の供給等、国産材の安定供給と需要拡大を図ります。

(1) 民有林との協定による森林共同施業団地の設定を行い、民・国が連携した効率的な路網整備や間伐の推進に取り組んでいます。

「林業専用道作設指針」に基づいた路網整備を本格的に実施し、民有林への普及や開設技術の向上に努めます。

平成24年度は、各団地における効率的な路網の設定、木材の有利販売に係る取組、集約化に向けた中小規模の森林所有者との協定締結等を目指します。

「林業専用道」については120kmを目標に開設を進めます。またモデル路網も活用し、民有林への普及を図るための研修を実施します。

(2) 地域林業を支える人材の育成
国有林の組織・資源・技術

「森林作業道」については、技術者の養成、現地検討会や署間の相互検証等を行い、一層の

活用し、地域の森林・林業の再生に不可欠な人材育成に貢献することとし、熊本南部署管内等をフィールドとして准フォレスト研修、林業専用道技術者育成研修等を実施します。

国有林准フォレスト等を中心に地域の民有林行政の支援に取り組みます。

林業の低コスト化と木材の安定供給

森林・林業の再生に向け、新たな路網の整備、コンテナ苗の活用等による低コスト造林の取組を進め、森林施業全体を通じた低コスト化を推進します。また、システム販売やC材の供給等、国産材の安定供給と需要拡大を図ります。

(1) 林業再生の基盤となる路網の整備

「林業専用道作設指針」に基づいた路網整備を本格的に実施し、民有林への普及や開設技術の向上に努めます。

「林業専用道」については120kmを目標に開設を進めます。またモデル路網も活用し、民有林への普及を図るための研修を実施します。

「森林作業道」については、技術者の養成、現地検討会や署間の相互検証等を行い、一層の

定着を図ります。また、国有林における研修の実施、民有林の研修等への指導者の派遣等を行います。

(2) 低コスト造林の確立
育林コストの低減に向け、約30万本のコンテナ苗の植栽、伐採直後の植付による地拵えの簡略化や、初期生長の良さを活かした下刈り回数低減等の実証に取り組みます。

研究機関や県とも連携したデータ収集・普及を行い、民有林も含めて林業全般の経営コストの低減に貢献します。

(3) 国産材の安定供給・利用拡大
大規模需要者との協定に基づく「システム販売」を推進するとともに、民有林と連携した共同出荷を拡大していきます。また、バイオマス発電用燃料として小径木などの未利用材等の利用拡大に取り組めます。

3ヶ年にわたる複数年度契約による効率的な間伐事業を実施していきます。

九州の多様な豊かな森林 を守り育てる取組

国有林は、原生的な天然林から人工林、高山帯など、様々なタイプの生態系、生物が生息・生育している森林を多く有し、我が国の生物多様性の保全を図

る上で重要な役割を担っています。

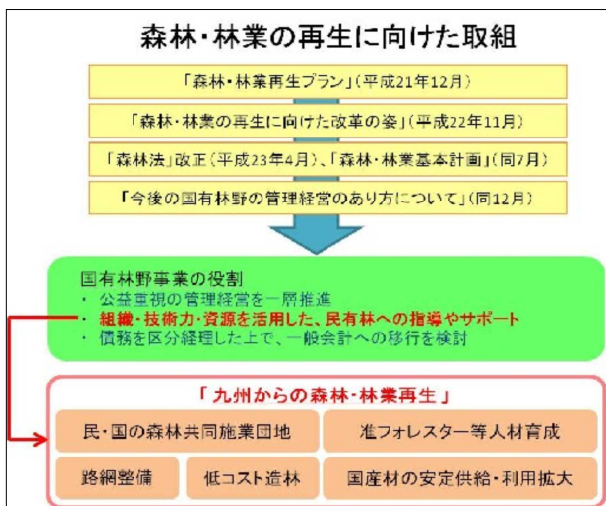
(2) 貴重な森林生態系等の保全管理

今後とも、保護林の設定等により森林の生態系や遺伝資源等の適切な保護・保全に努めるとともに、特に森林生態系への大きな脅威となっているシカ対策に取り組みなど、九州の多様で豊かな森林の一層の保全管理を推進します。

(1) シカ対策
屋久島や九州中央山地など、九州各地で農林業のみならず生物多様性への大きな脅威となっているシカ被害について、地域とも連携しつつ、個体数調整や植生保護等の対策に積極的に取り組みます。

(3) 野生動物植物の保護管理
絶滅危惧種の生息状況のモニタリング、生息環境の整備等による希少な野生動物植物の生息地

宮崎県綾川流域において、地域と協働しつつ、照葉樹林の厳正な保護、人工林から照葉樹林を還元するための調査検討等を実施します。



国産材の安定供給



路網整備の推進

の保護管理に取り組みます。

(4) 普及啓発等
森林生態系や遺伝資源等の保護・保全をはじめ、森林・林業に関する各種シンポジウム、セミナー等の開催、情報の発信に努めます。

また、新燃岳噴火対策として、噴火後新たに策定した治山事業全体計画を踏まえ、治山施設を新設するとともに、関係機関と連携を図りつつ、森林の保全を含めた早期かつ効果的な治山事業等を実施します。

また、新燃岳噴火対策として、噴火後新たに策定した治山事業全体計画を踏まえ、治山施設を新設するとともに、関係機関と連携を図りつつ、森林の保全を含めた早期かつ効果的な治山事業等を実施します。

国民の安全・安心の確保

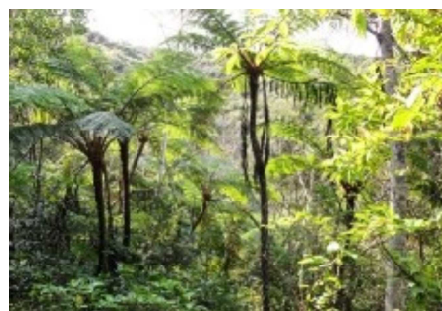
国民の安全・安心の確保に向けた効果的な治山事業を展開します。

また、新燃岳噴火対策として、噴火後新たに策定した治山事業全体計画を踏まえ、治山施設を新設するとともに、関係機関と連携を図りつつ、森林の保全を含めた早期かつ効果的な治山事業等を実施します。

(1) 安全・安心の確保に向けた効果的な治山事業の展開
国民生活の安全・安心を確保するため、民有林と連携を図りながら効果的かつ効果的に治山事業を展開します。

大規模な山地災害発生時における都道府県支援のための職員派遣等を迅速かつ円滑に実施します。

平成23年に発生した台風12号により被災した奈良県に職員を現地派遣しています。
木材の利用促進及び溪流生態



世界遺産を目指す奄美大島の森林

系保全に配慮した治山事業の推進に積極的に取り組みます。

(2) 新燃岳噴火対策の推進
地域住民の安全・安心を確保するため、地元要望の把握に努めるとともに治山事業全体計画を踏まえ、荒廃した溪流や山腹に治山施設を新設し早期に復旧します。

併せて、関係機関との情報の共有及び連携を図りながら早期かつ効果的な治山事業を実施します。

森林・林業と国民へのふれあいの推進

未来を担う子ども達や地域住民に対して、各種イベント、セミナー、ふれあい活動、情報の発信等を積極的に実施し、森林・林業への理解の増進に取り組みます。

(1) 普及啓発活動
森林のむたらす様々な働きや役割をご理解をいただくとともに、森林や木材等に親しみを持っていたり、実践・公開講座や「森林と緑の子どもスケッチ大会」等を実施します。

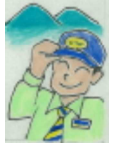
(2) 森林環境教育
子ども達への森林環境教育活動の中で、国有林をフィールドとして行う体験活動、小学校教諭を対象とした「森の塾」の開催、現場で教室を開く「お出かけ講座」など森林教室等を積極的に開催し森林環境について情報提供を行います。



森林教室の開催

(3) 森林とのふれあい
様々な企業やNPO等の参加による「レクリエーションの森」の整備を推進するとともに森林浴や自然観察会など様々な利用者ニーズに即したフィールドを提供します。

自署の名山



屋久島森林管理署
小瀬田森林事務所

森林官 嘉門 洋介

屋久島の隠れた名山 『愛子岳』 標高1235.5m

回はこれら名脇役の一つ、当森林事務所管内の「愛子岳」のご紹介です。

洋上アルプス屋久島には九州最高峰の宮之浦岳をはじめ、標高1800以上の山々が数多くあります。これらの山には全国各地から登山客が訪れ、屋久島の主役達と言った雰囲気です。

しかし、屋久島には知名度と標高は低いものの、独特の個性を持った山が沢山あります。今

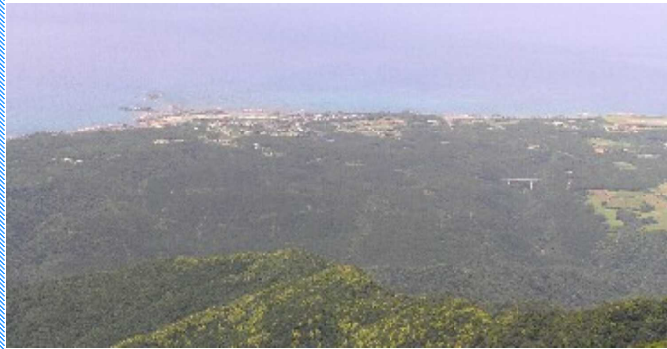
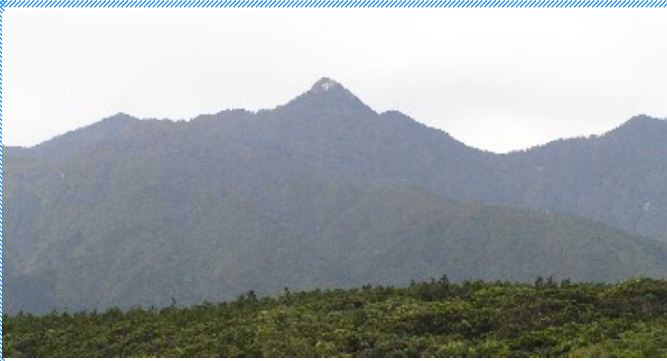
愛子岳は島の北東部、小瀬田集落の麓からそびえる標高1235.5mの山で、集落からは先端が尖った秀麗な山容をよく望むことができます。尖った先端が矢先に見えることからその古代語である「アイコ」が山名の由来と言われています。愛子岳は山全体が世界自然遺産地域に含

まれ、登山道は鬱蒼とした照葉樹に囲まれ、下層はツバキ、ハインキ、サクラツツジ等の植物が目を引き、中腹には「しるべの木」と言われる屋久杉の大切に株もあり、原生的雰囲気があります。

一方、山頂に近づくと、植物は減り、岩場が連続する荒々しい雰囲気に変じます。山頂からは西に宮之浦岳、北東には海と種子島が見渡せ、屋久島でも有数の展望が得られます。

また、愛子岳は麓の小瀬田集落にとって特別な存在です。集落では毎年、11月に「愛子祭り」と呼ばれる祭事を行い、総出で山への感謝と共に愛子岳への登山を行います。さらに地元酒造会社では「愛子」という焼酎も造られ、この焼酎は島内でも小瀬田の商店でしか購入できません。このことから小瀬田の人達がいかに愛子岳を愛しているのかが良くわかります。

このように様々な顔を持つ愛子岳はとても魅力的な山といえます。屋久島に来られる際はこの隠れた名脇役に目を向けるのもいかがでしょうか。



(上) 集落から見た仰ぎ見る愛子岳
(下) 山頂から見下ろす小瀬田集落

平成24年度「実践・公開講座」受講者募集のお知らせ

九州森林管理局では、森林のもたらす様々な働きや大切さを理解していただくために「実践・公開講座」を実施しております。今年度も九州森林インストラクター会と共同開催する講座を計画しております。つきましては、皆様のご応募をお待ちしております。

平成24年度「実践・公開講座」実施予定表

講座名	実施日時	受講料	募集期間
第1回 葉の構造を学ぶ	6月10日(日) 9:30～12:00	200円	5月7日～6月1日
第2回 絵手紙	7月29日(日) 9:30～12:00	400円	6月25日～7月20日
第3回 クラフト	8月19日(日) 9:30～14:00	900～1000円	7月17日～8月10日
第4回 草木染め	10月14日(日) 9:30～14:00	500～1400円	9月10日～10月5日
第5回 リース作り	12月9日(日) 9:30～14:00	700円	11月5日～11月30日

1. 応募方法…各講座ごとに募集期間は下記のとおりです。はがきに住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話(FAX)番号を記入のうえ、下記までお申し込み下さい。(FAX可)後日、実施案内(連絡通知)をお送りします。
2. 募集定員…各講座とも30名程度とします。
3. 応募締切…先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。
4. その他…受講料は目安です。(材料代、資料代、保険料が含まれます。)開催場所はすべて監物台樹木園となります。

お申し込み・お問い合わせ先 九州森林管理局 指導普及課(担当:緑の普及係)
〒860-0081 熊本市西区京町本丁2番7号
TEL 050-3160-6637
FAX 096-326-7062

(4)九州間伐紙の普及
身近な木製品である「紙」を通じて消費者と森林・林業を結ぶ九州間伐紙「木になる紙」(国民が支える森林づくり運動)の取組を通じて、国民全体での森林づくりに貢献します。

(5)情報発信
その他各種イベントを実施するとともに、森林・林業再生プランの実現に向けた取組や森林・林業と国民とのふれあい等をテーマとした九州森林・林業セミナーを開催します。

(担当:企画調整室)

優良工事施工業者6社と 技術者など4人を表彰

平成23年度岩山・林道工事コンクールの表彰式を4月10日九州森林管理局で行いました。

今回のコンクールでは、局で推薦した2社が林野庁長官賞に選出され2月16日に林野庁で表彰されました。

また、それ以外の工事で、自主的な施工管理に積極的に取り組み、品質管理、安全管理、林地保全などに配慮した優良な工

事を施工した岩山工事3社、林道工事3社に対し局長表彰したものです。

なお、農林水産大臣賞および林野庁長官賞を受賞した工事の担当技術者および監督職員に対し局長表彰を行いました。

受賞者は次のとおりです。
林野庁長官賞
○桜島地区岩山工事（あみだ川第1支流第6分流）《鹿児島署

【技術者等の部】
発注《株式会社 島津建設

代表取締役 葉山薫

○段ノ頭林道22支線新設工事

《鹿児島署発注》

吉村工業株式会社

代表取締役 吉村三男

九州森林管理局長賞

【工事の部】

○樫葉2岩山工事（関連災）

《宮崎北部署発注》

合資会社 七組

代表社員 岩本健司

○霧島5岩山工事（関連災）

《都城支署発注》

株式会社 財部組

代表取締役 川畑弘志

○田代鹿倉岩山工事（関連災）

《北薩署発注》

薩摩建設株式会社

代表取締役 山本求道

○後野林道新設工事

《大分西部署発注》

小倉建設株式会社

代表取締役 永吉陽一

○鳥山（108側）林道新設工事

《北薩署発注》

株式会社 小田原建設

代表取締役 小田原光二

○傾山1023作業道新設工事

《大分署発注》

清川産業株式会社

代表取締役 江藤龍治

【技術者等の部】
林野庁長官賞受賞工事

桜島地区岩山工事（あみだ川第1支流第6分流）

○主任技術者 野添博幸（株式会社島津建設）

○監督職員 農林水産技官 松永和久

○主任技術者 鹿屋久島署

段ノ頭林道22支線新設工事

○主任技術者 鮫島拓己（吉村工業会社）

○監督職員 農林水産技官 山下裕之

鹿児島署（現局岩山課）

（担当＝森林整備課）

すばらしい自然遺産を未来に残そう

菊池渓谷は、阿蘇外輪山の西北、菊池市と阿蘇市にまたがり、標高400m～900mを東北から西南西へ流れる菊池川の源流で、イロハモミジ、ケヤキ、ブナ、ハイノキ、スギ、モミといった暖帯林、温帯林に覆われ、溪流が大小さまざまな滝や淵を形成し、美しい景観をつくりだしています。



菊池渓谷を美しくする
保護管理協議会
会長（菊池市長）

福村 三男

この渓谷の管理運営上の問題は、老齢過熟林といわれ、大雨や台風時には、倒木の恐れがあり、主要散策道である九州自然歩道も落石の危険性が高いことです。

そこで、熊本森林管理署と定

が設立されました。昭和52年に、入林者から清掃協力金を受領し、ゴミ収集やトイレ清掃、遊歩道の補修などをを行うようになり、平成15年に現在の名称「菊池渓谷を美しくする保護管理協議会」となりました。

多くのみなさんに、このすばらしい自然休養林で、心身ともにリフレッシュしていただきたいと思う反面、環境破壊や事故が発生するのではないかと懸念もあります。

今後関係機関と連携を深めながら、自然保護と観光を共生させ、このすばらしい自然遺産を守り育て、未来に残していきたいと願うものです。

野庁により「くまもと自然休養林」としてこの

渓谷が指定されると、年間30万人を超える観光客が訪れる自然景勝地となり、自然保護と管理運営の必要性が生じたことから、昭和46年、本協議会の前身である「菊池渓谷保護管理協議会」

そこで、熊本森林管理署と定



コンクールで表彰された関係者のみなさん